

[編集後記]

第75巻1号をお届けいたします。投稿規程が一部マイナーチェンジいたしましたので協力宜しくお願いいたします。本号もこれまでと同様に中島祥夫編集委員長の指揮のもとで発刊されたものですが、当編集委員会では21世紀につながる記念すべき特別な号と位置づけております。その理由は、第67巻1号から7年間に渡り編集委員長を務められ、千葉医学雑誌の活性化に取り組んでこられました中島祥夫教授（千葉大学医学部生理学第一講座）が御苦勞して築き上げた編集理念がほぼ完璧な形で盛り込まれており、今後の編集活動に多くの有益な指針を示していると考えられます。中島先生の編集委員長としての功績を挙げればきりがありませんが、時期を得た話題を積極的に掲載したこと、さらには第71巻1号から和文目次、英文目次、和文要旨、英文要旨をインターネットに載せ千葉医学雑誌を世界中からアクセス可能にしたことなどが挙げられると思います。千葉医学雑誌のホームページのアドレスは <http://www.m.chiba-u.ac.jp/med-journal/index-j.html> です。雑誌が皆様のお手元に届く2～4週間前に公開されておりますので是非一度お試し下さい。1995年の第71巻1号までは遡って見るこ

とも可能です。また、千葉大学医学部のホームページや各教室のホームページへのアクセスも出来ますので大変便利です。

ところでご報告があります。平成11年1月19日に開催されました第228回千葉医学会編集委員会におきまして、中島編集委員長の後を受け、新編集委員長に野田公俊（微生物学第二講座）が、そして副編集委員長に北原 宏教授（放射線部）と徳久剛史教授（大学院高次機能系）が就任いたしました。私どもは中島先生の示された方法を継承しつつ、さらに時代の要求にあった方向で編集活動を進めていきたいと考えておりますので、どうかこれまでと同様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

中島教授には引き続き編集委員会にお残りいただきご指導をいただけることになりましたので我々編集委員も一安心しております。皆様からも千葉医学雑誌の更なる活性化に関するご意見を是非お寄せいただきたいと存じます。郵便・電話・FAX・E-mail 何でも結構です。

（新編集委員長 野田公俊 : noda@med.m.chiba-u.ac.jp）